

鉄道沿線まちづくり・駅まちづくり全国会議 開会挨拶(国土交通省の取組)

国土交通省 都市局
街路交通施設課長 青柳 太
令和7年2月28日

鉄道沿線まちづくりについて(H27ガイドライン)

- 円滑かつ効果的に「鉄道沿線まちづくり」が推進されるよう、**H27年に「鉄道沿線まちづくりガイドライン（第一版）」を策定**
- 広域の視点から各市町村が立地適正化計画を作成し、鉄道を軸とした都市機能が再編されることによるコンパクトシティ形成に重点**

1. ガイドライン策定の背景及び目的

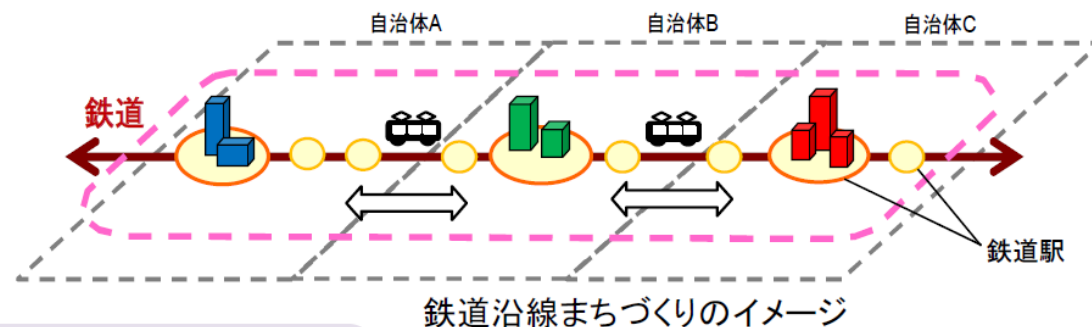
鉄道沿線まちづくりとは・・・鉄道を軸に都市機能が集積するという構造を活かしつつ、交通結節点である駅周辺に福祉、子育て支援、買い物等の生活支援機能を誘導するとともに、拠点病院、大規模商業施設、文化ホール等の高次の都市機能については沿線の市町村間で分担・連携し、あわせてサービス向上等によってフィーダー（支線）交通を含む公共交通機能の強化を図るまちづくりの手法

人口減少・高齢化を背景に、都市サービス、都市経営の持続性の低下が懸念

地方公共団体、鉄道事業者双方にとって「鉄道沿線まちづくり」が必要

- ・ 沿線市町村と鉄道事業者を含む**協議会**の設置
- ・ 「**鉄道沿線まちづくり方針**」の作成
- ・ 具体的方策に関する「**鉄道沿線まちづくり計画**」の作成

広域連携の視点をもって鉄道沿線の各市町村が**立地適正化計画**を作成することにより、**鉄道を軸とした都市機能の再編**等によるコンパクトシティ形成に向けた取組の推進につながる



高次都市機能の例：

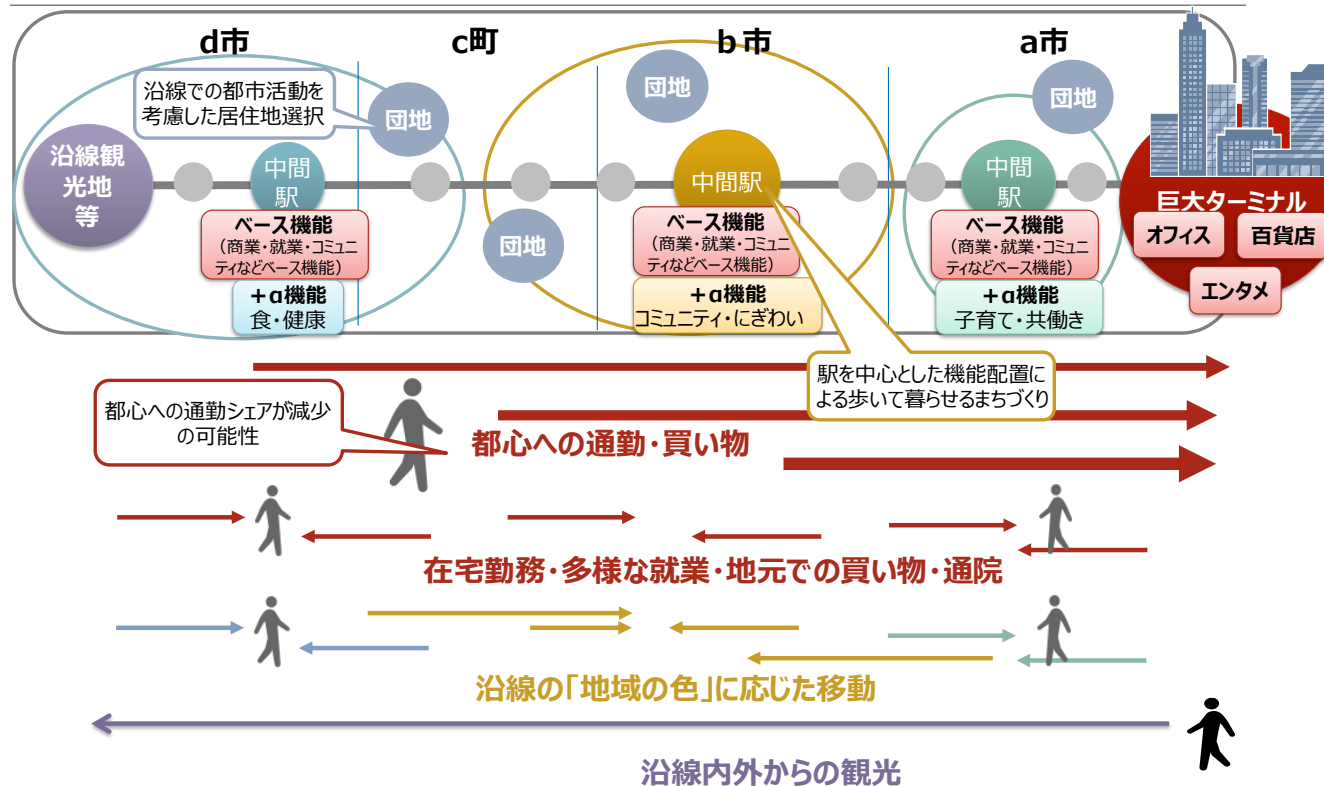
-  拠点病院
-  文化ホール等
-  大規模商業施設

鉄道沿線まちづくりについて(H27ガイドライン以降の動き)

- コロナ後の鉄道の厳しい状況。**
他方、**沿線の人々は身近な空間で質の高い住、職、遊、学等の機能を求めている。**
- 鉄道駅周辺、高架下、線路敷等の多様なアセットを活用した鉄道会社の取り組みの広がり**

沿線価値向上

鉄道沿線で様々な主体が連携しながら、広域圏で共通のコンセプトを持って取組を行い、**居住だけでなく就業・消費・介護・子育てなどが可能な魅力的のある沿線**をつくりあげること
で移動需要を喚起。



沿線地域のブランド価値の向上

圏域で連携することによる相乗効果 **w i n - w i n**

自治体にとってのメリット

互いの地域資源を活かしたひとつの生活圏として
沿線内外への認知度向上・魅力発信

- ・観光客や関係人口の呼び込み
- ・居住者の転出抑制、生活圏人口の維持
- ・新たな圏域での交流・消費需要の活性化 等

鉄道事業者にとってのメリット

沿線の自治体と連携した沿線圏域として
沿線内外への認知度向上・魅力発信

- ・来街者としての利用者数増
- ・沿線人口増加による定常利用機会増
- ・新たな移動需要・関連事業活性化 等

各地域の民間企業、店舗、地域団体等にとってのメリット

行政境にとらわれない鉄道を軸とした地域プレイヤーの相互連携により

- ・沿線外からの広域での顧客獲得
- ・沿線生活圏の人口増加による安定需要の創出
- ・多様な人材が交流することによるイノベーションの誘発、新たな事業展開の可能性 等

中長期的に一体的な沿線都市圏の形成
(鉄道沿線を軸としたコンパクト・プラス・ネットワークの形成)

ポイント1. 課題やビジョンの共有（共通認識の醸成）

- 鉄道事業者および沿線地方公共団体において、それぞれ目標や対象エリアの範囲等が異なることが想定される
- まずは、データ等による現状把握を通じ、共通課題の抽出や共通ビジョンを策定する等、目指すべき方向性の意識合わせを行うことが重要

ポイント2. スモールスタートを切る（連携テーマの設定）

- 具体的な取組を検討するにあたっては、まずは各主体がすでに実施している取組について共通ビジョンを踏まえ改めて整理しなおす等、既存の取組の延長線上での連携を進めるなど、スモールスタートを切ることが重要

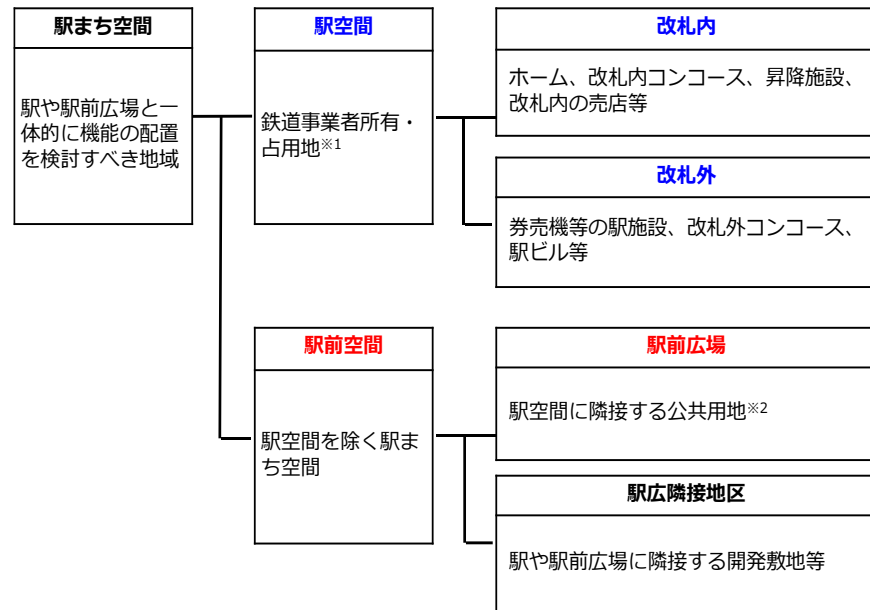
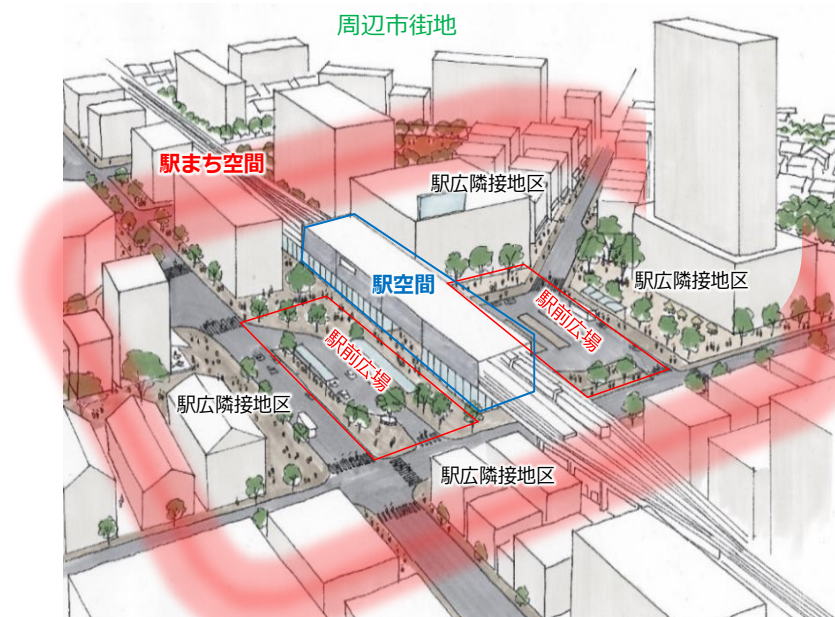
ポイント3. 持続的な体制づくり（プラットフォームの構築）

- 中長期的な連携体制を構築するため、まずは、担当者レベルでの任意の勉強会を開催しつつも、たとえば、連携協定の締結や協議会の形成等、組織間での持続的な体制を構築することが重要
- なお、検討を進めるにあたっては、沿線の市町村や鉄道事業者以外にも、広域行政を担う都道府県や、各地で活動を進めている地域団体等、さまざまな主体からの発意も考えられる。

駅まちデザインについて

駅まち空間とは 駅や駅前広場と一体的に、周辺市街地との関係もふまえ、必要な機能の配置を検討することが期待される空間

駅空間、駅前広場、周辺街区等、個々に最適化するのではなく、「駅まち空間」として一体的に捉え、様々な関係者が「まちを良くする」視点をもって連携することが重要

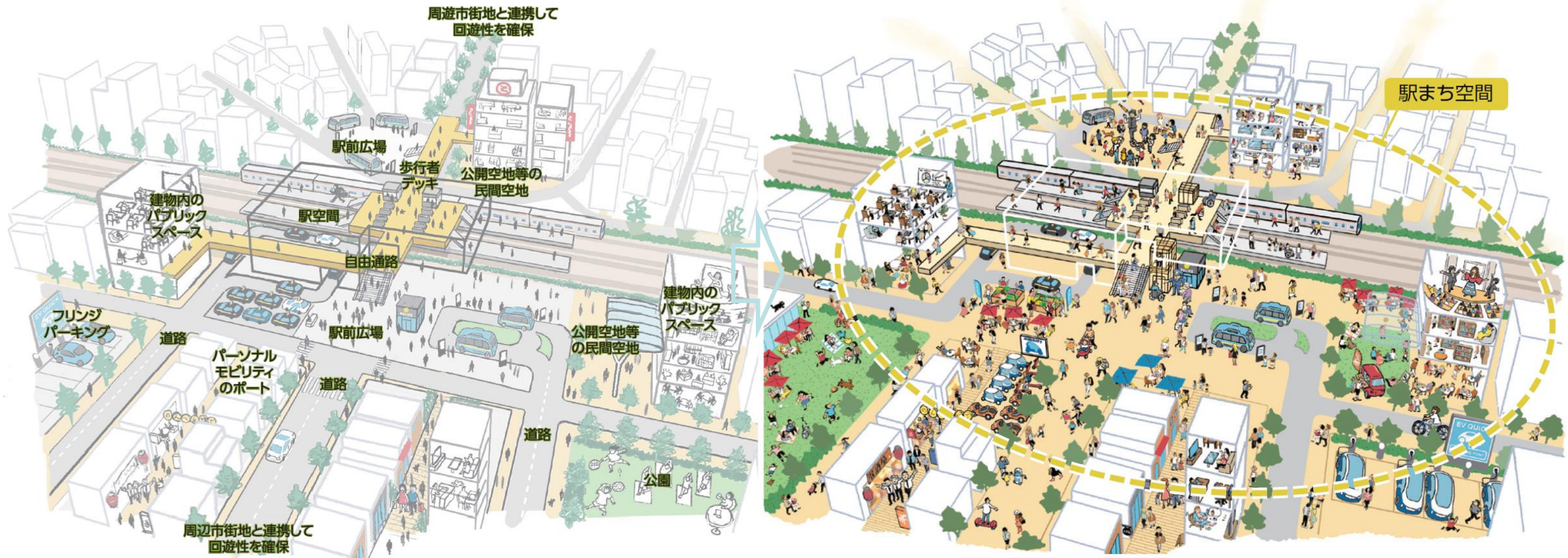


※1 協定駅前広場は除く
※2 協定駅前広場内の鉄道事業者所有・占有地を含む

駅まち再構築事例集 (令和2年7月 国土交通省 都市局 街路交通施設課)

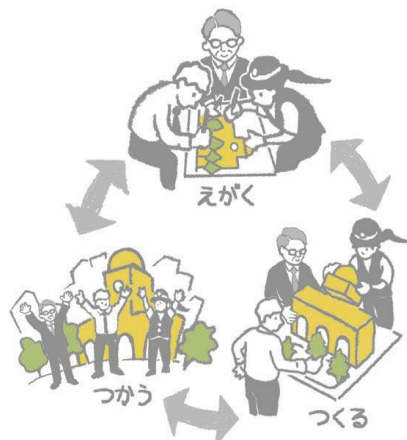
駅まちデザインの手引き (令和3年9月 駅まちデザイン検討会)

これからの駅まち空間のイメージ



- 駅まち空間を、これからの時代のまちづくりの中核を担い得る場所ととらえる
- 駅まち空間が備えているポテンシャルを最大限効果的に発揮できるようデザイン
- 既成市街地の再生に向けたり・デザインの視点や、地域の価値を持続的に向上させていくマネジメントの視点を持つ
- 鉄道事業者、地方公共団体、開発事業者、市民等の様々な関係者が「まちを良くする」視点をもって連携し、共有すべきビジョンを明確にして、空間や機能を一体的に捉え、管理運営も含めて柔軟かつ総合的に取り組むこと

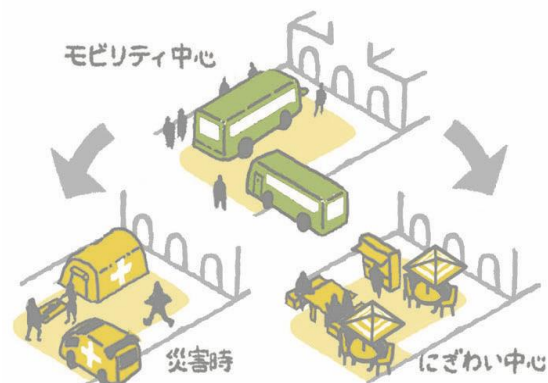
1 多様な主体の連携



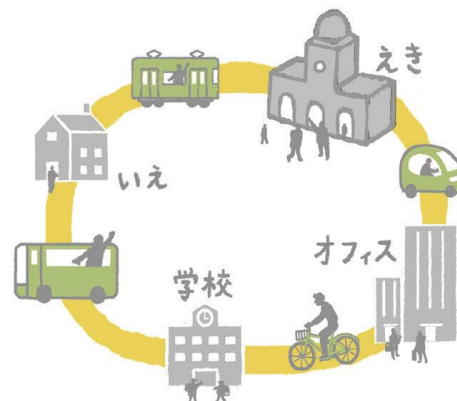
2 ビジョンの共有



3 空間の共有



4 機能の連携



5 一体的で柔軟な運営



鉄道事業者にとっても地域にとっても持続可能な
Win-Winな沿線まちづくりの仕組みとは？

本日のご議論、どうぞよろしくお願いいたします